

関西マレー世界研究会の活動について

山本博之・河野元子

関西マレー世界研究会は、日本マレーシア研究会関西地区のメンバーを中心に、京都を拠点に 2006 年 4 月に活動を開始しました。マレーシア・インドネシアや近隣地域を含むマレー世界について関心をもったさまざまな分野の人が集まり、読書会および研究会を通して同地域のより深い理解をめざしています。現在（2007 年 5 月）までに 11 回の読書会／研究会を重ねてきました。これまでの読書会／研究会の活動は以下のとおりです。

(1) 日時および会場

読書会／研究会は、月一回（木曜日の夕方から）を基本に、京都大学地域研究統合情報センターを主会場に行っています。詳細は以下研究会の活動報告を参照ください。

(2) 読書会

マレー世界研究の古典であるロフの下記の著作をテキストにしています。進め方は、事前に立てられた報告者が読書会をリードする形でおこなっていますが、テキストを要約した上で論点を提示し討論する、全訳して検討するなど、やり方についてもさまざまな試みがなされています。

William R.Roff. 1994(1967). *The Origins of Malay Nationalism*. Second Edition. Oxford University Press.

(3) 研究会

第 2 回目より読書会にあわせて研究会をはじめました。大学院生からは博士論文または修士論文の構想や研究計画などについて報告がなされる一方で、若手研究者にはより広い視野へのアプローチや隣接学問とのコラボを意識した地域研究の可能性、さらにシニア研究者には厚い研究蓄積に裏づけされたご報告をいただいています。いずれの研究報告にも共通しているのは、データの細かさで勝負するのではなく、それをどのように組み立てればどのような像が描けるのかに主たる関心が寄せられている点です。知識の共有にとどまらず、ディスカッションではさまざまなアイデアが飛び出す、興味深い会が続いています。

*は京都大学地域研究統合情報センター3階会議室での開催を示します。メイン会場以外での開催のみ会場名を記します。

- 第2回 2006年5月25日(木) *
報告：内藤大輔(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科院生)
「フィールドワークの報告と今後の研究計画—マレーシアにおける森林認証制度と地域住民—」
- 第3回 6月22日(木)
会場：京都大学中央総合研究棟(旧工学部4号館)4階アジア・アフリカ地域研究研究科セミナー室
報告：森下明子(京都大学東南アジア研究所研究員)
「マレーシア・サラワクの資源と政治」
- 第4回 7月20日(木) *
報告：加藤裕美(京都大学大学院人間環境学研究科院生)
「これまでの研究とこれからの研究計画—熱帯雨林の資源をめぐる狩猟採集民の社会変容—」
- 第5回 10月4日(木) *
報告：山本博之(京都大学地域研究統合情報センター)
「マレーシアにおける連邦制と民族」
- 第6回 11月2日(木) *
報告：市川昌広(総合地球環境学研究所)
「サラワク・イバン人の土地・森林利用—ドミニカと比較できるか?—」
- 第7回 2007年1月17日(木) *
報告：塩崎悠輝(同志社大学大学院神学研究科院生)
「ファジル・ヌールの時代—現代マレーシアのウラマーと国家—」
- 第8回 2月7日(水)
会場：同志社大学今出川校地扶桑館2階メディアルーム1
報告：中田 考(同志社大学神学部)
「マレー・イスラーム研究へ向けて」
- 第9回 3月6日(火) *
報告：小野林太郎(国立民族学博物館)
「海域世界の地域研究をめざして—民族考古学アプローチからの試み—」
- 第10回 4月18日(水) *
報告：村上 咲(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科院生)
「博士論文構想：(仮)20世紀インドネシアと保健—脱植民地化、人民(rakyat)、科学—」
- 第11回 5月10日(木) *
報告：河野元子(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科院生)

「博士論文構想：(仮) 現代マレーシアとトレンガヌ・マレーの抵抗 1971-2004—
マレー海民社会・新経済政策・緊張と補完の政治—」

(4) ご案内

読書会／研究会は月一回の開催を基本としていますが、報告者や会場の都合などにより、第何週目に開催するかは確定していません。また、海外への調査が重なる期間の開催も見合わせています。案内は JAMS メーリングリストを通じて行っていますのでご参照いただくとともに、ご興味のある方に、転送してご案内いただければ幸いです。

■問い合わせ先

関西マレー世界研究会世話人
山本博之
河野元子